

GO

FLY



新北島中学校 学年通信 No33

2020.06.30. 発行



いよいよ近畿地方も梅雨の季節となりました。地理でも学んだように、日本は世界の気候区分からいうと温暖湿潤気候になります。もうこの時点でわかると思いますが、「湿潤」ということばにあるように日本は雨の多い国です。同じ温帯でも地中海の周りでは、年間の晴天日数が300日を超えるところがあるといわれています。調べてみたら、トルコのアランヤというところでは300日、スペインのコスタデルソルは325日の晴天の日があるとわかりました。日本の場合、いちばん晴天日数が多い香川県でも249日(日本平均は216日)ですから、大きなちがひがあります。日本の場合は100日以上が雨ということで、1年のうち1/3が雨ということになります。

Y ; よく降りますね。

編 ; ホンマや。毎日ジメジメするし、外で活動もでけへんし・・・こまったもんや。

Y ; 編集長！ひょっとして「雨男」とちゃいますか？ 何かしようとしたり現れたりするだけで雨が降る、あの疫病神のような存在！

編 ; たしかに、人によっては自分のことを雨男と思い込んでいる人も多いような！しかし、疫病神とは言い過ぎや。雨は植物が育つためには必要なもの。とくに日本では、梅雨どきの雨が稲作にとってたいへん重要なものになる。恵みの雨でもあるのじゃ。

そういうキミこそ雨男やないのか？

Y ; いいえ、とんでもない。編集長を差し置いて「雨男」やなんて、めっそうもありません。でも、自分のことを晴れ男と思い込んでいる人もいますよ。もちろん、なんとも思っていない人がいちばん多いと思いますが・・・

ところで、このまえいっしょに出かけたときにも雨が降ったじゃないですか。

編 ; あれは、キミが雨男やから・・・

まあ、晴れの日よりも雨の日の方が、しっかり印象に残ってしまうということはあるな。実際のところ、「この前も雨が降った」という印象がキミの頭にのこってるではないか。「大切な日に雨が降ってさんざんだった」などという、マイナスのできごとが起こると、強く印象に残り、雨の日の印象がどんどん蓄積されていく。雨の日のインパクトが強く、晴れの日が薄められてしまうのじゃ。

Y ; 周りの人はみんな、「編集長は雨男や」って言うてますよ。

編 ; 周りの人から「あいつがくると雨が降る」といわれることも大きな原因。科学的な根拠は何もないのに、このことばがボディブローのように効いてくるのじゃ。周囲の人の影響力はことのほか強く、何かいわれると簡単に雨男を受け入れてしまう。そして、「自分で自分のことを雨男だと思ってしまうこと」が、雨男が雨男であることの最後のとどめでもあるのじゃ。ここまですると、多少晴れの日が続いたとしても「たまたま晴れだった」ということになり、ついには「雨男」の完成となる。

Y ; よう研究してはりますね！ さすが「雨男」や。